

トウェアを中心とした車両開発プロセスへの変更に大きく舵を切るなか、サプライヤー側のソフトウェア品質の課題が車両品質および車両モデルライフに与える影響は計りしれず、常に最先端の技術を持つサプライヤーの確保・発掘が競争力確保の鍵となる。

*

前述のとおり、国内自動車メーカーリスク顕在時の対応は迅速であるが、リスクを検知し、事前に備えることがより重要だ。危機管理チームなどを立ち上げ、新たなサプライチェーン管理の手法を取り入れているものの効果は限定的なものとなっており、多階層のパートナーと協力・連携することが求められている。下位層の供給レベルを可視化することができれば、ボトルネックを早期に発見し、危機管理を向上することができる。サプライチェーン情報の可視化は、「あると便利」な機能ではなく、もはや競争力の源泉となっている。

今後は、開発、製造、物流といった縦割りの分断された情報管理ではなく、サプライチェーンのすべての事象に対する透明性とアクセスを提供していく必要がある。これによ

て、キーとなる部品や車がどこにあるのかを確認することができ、パートナー、ディーラー、顧客との間でのコラボレーションや同期化が可能となる。

加えて、データドリブンによる事

赤尾 聡(あかお・さとし)
有限責任監査法人トーマツ リスクアドバイザリー事業本部 パートナー
証券系シンクタンクを経て、デロイトトーマツに入社。デロイトトーマツでは、東海地方においてシステム監査、リスクマネジメント、内部統制、情報セキュリティ対策、サステナビリティ関連業務に従事。5年間のタイ国駐在を経て、現在はオートモーティブユニットにて、OEMおよびサプライヤーに対して、グローバルな観点からのリスク対応についてアドバイスをを行っている。

実に即した正しい迅速な意思決定も可能となってくる。そのためには、情報が一元管理されたデジタルエコシステムへの厳格なアクセス制限機能のしくみ、およびアクセス権限の管理のようなデジタル施策も必要と

西 賢治(にし・けんじ)
有限責任監査法人トーマツ リスクアドバイザリー事業本部 マネージングディレクター
日系自動車会社にて、グローバルIT戦略、ガバナンス、システム開発業務、海外駐在などを経験した後、デロイトトーマツに入社。リスクアドバイザリーの自動車セクターをリードしている。自動車業界に対して、デジタルガバナンス、サプライチェーンリスクマネジメント、データガバナンス等のアドバイザリー業務に従事し、クライアントのDX推進をしている。

なる。サプライチェーンに支えられている自動車業界においては、いかにリスクへの備えをしておくかがまさに生命線となる。

辻 亮介(つじ・りょうすけ)
有限責任監査法人トーマツ リスクアドバイザリー事業本部 シニアマネジャー
日系自動車会社にて、商品企画、中期商品計画、販売店支援、需給マネジメント、海外駐在などを経験した後、デロイトトーマツに入社。リスクアドバイザリー自動車セクターにて販売店経営高度化、リスクマネジメント等のアドバイザリー業務に従事している。

第3章

ガバナンス、モニタリング、TPRM… サプライチェーンリスクへの対応策と将来展望

有限責任監査法人トーマツ

中山 崇

有限責任監査法人トーマツ
有限責任監査法人トーマツ

角屋敷 輔

西岡 到

【この章のエッセンス】

● サプライチェーンリスクへの対策

として、組織として意思決定を下せるようなガバナンス体制の構築やAI等のテクノロジーを活用し

たデータアナリティクスの活用、サプライヤーを含めたサードパーティーのリスク管理(TPRM)の